

つり環境ビジョンコンセプトに基づく

LOVE BLUE

事業報告書

2016

～全国に広がる感謝の輪～



LOVE

BLUE

地球の未来を

つり環境ビジョン

LOVE BLUE 事務局

未来へ残したい美しい地球の つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業

ア

(株)アイビック
(株)アイビーライン
アキレス(株)
(有)アクティブ
アサヒレジャー(株)
アチック
(株)アピア
(株)アムズデザイン
(有)アリゲーター技研
(株)アングラズ
アングラズサポートシステム(株)
アングラズデザイン(株)
アングラズリパブリック(株)
(有)アングル
(株)イシグロ
(有)イシナダ釣工業
五十鈴工業(株)
(株)issei
ING.co.,
INFINITE SEEDS MAKERS(株)
ヴァンフック(株)
(株)ウイン インコーポレーテッド、ジャパン
(株)ウィング
植田漁具(株)
(株)ウォーターハウス
(有)ウォーターランド
(株)魚矢
(株)宇崎日新
ウチダトレーディング・モリックスジャパン
(株)エイチ・エー・エル
(株)エイテック
(株)ESTATE
(株)エバグリーンインターナショナル
エフ・ケイ
(有)エムワントレーディング
OSGS
(有)オー・エス・ピー
(株)オーナーぱり
(株)オーパデザイン
オウルジーンズ
(株)オオモリ
(有)オジーズ
(株)小野由

(株)オフィスアクセル
(有)オフィス・ユーカリ
オフト(株)
(株)オリムピック
(株)オンスタックル

カ

(株)鶴祥
景山産業(株)
(株)カズマーク
(株)カツイチ
(有)加藤精工
カハラジャパン(株)
(有)カビイ
(株)がまかつ
(有)カラーズインターナショナル
(株)川せみ針
(有)ガンクラフト
(有)関門工業
(株)キサカ
(株)キザクラ
(株)KILLER HEAT
(株)クリーブラッツ
(株)Grayhound
クレハ合織(株)
グローブライド(株)
(株)ケイテック
(株)ゲインコーポレーション
(株)ケーター関東
ゲーリーインターナショナル(株)
(株)KIOB
ケンインターナショナル(株)
(株)剛樹
(株)ゴーセン
(株)コヒナタ

サ

(株)34
(有)財津釣具
(有)サウスウィンド
栄通商(株)
櫻井釣漁具(株)
(株)ささめ針
(株)ザップ
(有)サニー商事
サポートエンジニアリング フラー

サンヨーナイロン(株)
(株)サンライン
(株)ジークラック
(株)シーフロアコントロール
(株)シマノ
(株)清水
(株)下田漁具
(株)ジャクソン
(株)ジャッカル
NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会
(株)ジャンプライズ
(株)上州屋
(株)スーパー・ビー
skillful
(株)スズミインターナショナル
スターンキーパー(株)
スタジオディーピーアイ(株)
スティールハント
(株)スナガ
(株)スポーツライフプラネット
(株)スミス
征興産業(株)
(株)清光商店
(株)ゼニス
(株)ゼファーボート
(株)双進

タ

第一精工(株)
大同
大同石油(株)
ダイトウブク(株)
太陽産業(株)
(株)ダイレイ
タカ産業(株)
高階救命器具(株)
(株)タカミヤ
(株)タックルハウス
谷山商事(株)
タブリエ・コミュニケーションズ(株)
(株)ダミキジャパン
(株)ダン
痴虫
中央漁具(株)
(株)津田商会

ために 今 私たちは行動します 248社・団体参加(2017年8月31日現在 50音順)

(株)ツネミ
つりー(株)
(株)釣研
(株)テクノス
(株)DRT
TICA JAPAN(株)
D-CLAW
(株)DSTYLE
(株)ディパース・ファクトリー
(株)ティムコ
design KONI
(株)デプス
(株)デュオ
(株)天龍
(株)トアルソン
東邦産業(株)
東レ・モノフィラメント(株)
(有)トオヤ
(株)土肥富
(株)TRYALL
DRANCKRAZY(株)
DreemUp
ドリームエクスペスルアース

ナ

(株)内外出版社
(株)ナカジマ
ニッコー化成(株)
(株)NOIKE

ハ

ハイドアップ(有)
(株)ハイテックボート
バスディ(株)
(株)バスディ ジャパン
(株)林釣漁具製作所
(株)ハヤブサ
はり秀(株)
(株)ハリミツ
(有)HMKL
HAND MADE LURE HIRO
(株)ビーエムオージャパン
ピュア・フィッシング・ジャパン(株)
(有)ヒロカコーポレーション
FIELD BACK
Fishman(株)アレア

プエプロ(株)
(株)フォレスト
富士工業(株)
富士灯器(株)
(株)フジノライン
(株)フジワラ
(株)藤原辰次商店
(株)ブリーデン
ブルーブルー(株)
プロズワン
(株)プロックス
ベイトプレス
BeveL
(株)ベルモント
(株)北摂マリン
BOREAS
Bottomup(株)
(株)ボンバダアグア

マ

(株)マガジン・マガジン
マルキユー(株)
丸米商事(株)
(株)マルシン漁具
MARUTE
(株)まるふじ
mibro
(株)ミヤマエ
(株)ムカイフィッシング
(株)名光通信社
明邦化学工業(株)
(有)メガテック
メガバス(株)
メジャークラフト(株)
(株)モーリス
(有)もちづき釣具
(株)もりげん
moriken speed bite

ヤ

(株)ヤマイ
山田電器工業(株)
山豊テグス(株)
山本光学(株)
(株)ヤマリア
(株)ヤリエ

ユニチカ(株)
(有)よつあみ
(株)ラインシステム
(有)ラガチャイナ
落花生
(株)ラッキークラフト
Rattytwister
ラパラ・ジャパン(株)
REALS
(株)リガール
(株)リコーサーバンス
(株)リチャーズ
リトルジャック(株)
(有)リトルプレゼンツ
リミット
lure angle HAMA
ルアーショップ アンドウ

LURESHOP riprap
+Rooms'
(株)ルミカ
RAID JAPAN(株)
(株)レイン
LEGAME
レジットデザイン(株)
LESS is MORE
(株)レスターファイン
(有)ロデオクラフト

フ

(株)脇漁具製作所
(株)ワールドスポーツ
WILDFINS
(株)和田製作所
(株)ワトスファクトリー

< 寄付企業 >

— 2016年度 —
(株)釣りビジョン



環境・美化
ECO
協力商品

2013年4月 事業開始「環境・美化マーク」



2015年4月
地球環境基金企業協働プロジェクト第1号
NPO等助成開始




2015年6月 エコライフ・フェア2015 望月義夫 環境大臣ブース来訪
中央：望月義夫 環境大臣
左：大村一仁 副会長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2015年6月
環境大臣より感謝状を頂く
左：環境省 小林正明 事務次官
右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2017年6月
エコライフ・フェア2017
関芳弘環境副大臣ブース来訪

写真左
左：関芳弘 環境副大臣
右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長

写真右
中央：関芳弘 環境副大臣
左：福井光彦 (独)環境再生保全機構 理事長
右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長




2015年7月 茨城県酒沼のラムサール条約登録に貢献



2017年5月 茨城県龍ヶ崎市 中山一生 市長を表敬訪問
左：中山一生 市長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



牛久沼水中クリーンアップ活動



2015年9月 徳島県の小学校で環境教育授業を実施



2017年1月
環境省 表敬訪問
中央：小林正明 事務次官
左から松下和夫 京都大学名誉教授、
大村一仁 副会長、島野容三 会長、
小島忠雄 LOVE BLUE 委員長

2017年1月
環境省 表敬訪問
中央：小林正明 事務次官
左から松下和夫 京都大学名誉教授、
大村一仁 副会長、島野容三 会長、
小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2016年5月
三重県鳥羽市 木田久主一 市長を表敬訪問
左：木田久主一 市長 右：島野容三 会長



2016年4月 千葉県南房総市 石井裕 市長を表敬訪問
左：石井裕 市長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2016年7月
第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～と連携



2016年6月 エコライフ・フェア2016 丸川珠代 環境大臣ブース来訪
中央：丸川珠代 環境大臣 左：大村一仁 副会長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2016年5月
G7伊勢志摩サミットと連携

LOVE BLUE 事業報告書 2016

～全国に広がる感謝の輪～



目次

I 参加企業

II LOVE BLUE 事業のあゆみ

III LOVE BLUE TOPICS

- ・プロダイバー水中クリーンアップ活動が G7 伊勢志摩サミットへ貢献
～木田久主一 鳥羽市長を表敬訪問～
- ・継続的な社会貢献事業実施への評価と感謝～
～石井裕 南房総市長を表敬訪問～
- ・環境省より感謝状
- ・環境省へ表敬訪問
- ・茨城県との連携
～中山一生 龍ヶ崎市長を表敬訪問～
～クリーンアップ涸沼ネットワークとの連携～
～霞ヶ浦問題協議会との連携～

・漁業協同組合の皆さんからの感謝の声

- ～石川県漁業協同組合穴水支所 小泉一明 運営委員長が来訪～
- ～山形県漁業協同組合念珠関統括支所 佐藤修 統括支所長に伺う～

IV 2016 年度事業報告

- ・全国に広がる感謝の輪
～プロダイバー水中クリーンアップ活動編～
～地球環境基金企業協働プロジェクト編～
- ・専門機関と連携した放流

巻末 松下和夫京都大学名誉教授 ～社会的評価が高まる LOVE BLUE 事業～

公式 FACEBOOK 公式ホームページのご案内

LOVE BLUE 事業水中クリーンアップ活動 G7 伊勢志摩サミットへ貢献

G7伊勢志摩サミット 5月26日(木)・27日(金)

LOVE BLUEはG7伊勢志摩サミットを
水中クリーンアップ活動で応援します。



写真提供 伊勢志摩国立公園協会

木田久主一 鳥羽市長を 島野容三会長が表敬訪問

2016年5月19日(木)10:00～ 三重県鳥羽市役所市長室

2016年5月19日、G7 伊勢志摩サミットまであと7日となった、三重県鳥羽市・鳥羽市役所本庁舎内、鳥羽市長室へ、島野容三会長が表敬訪問しました。

G7 伊勢志摩サミットへ連なる LOVE BLUE 事業の「格」

島野会長（以下会長）：サミット前の大変お忙しい時期にお時間を頂きありがとうございます。

あらためまして、市長直々のお声かけで、鳥羽港の清掃の機会を頂戴し、さらには、G7 伊勢志摩サミットへのおもてなし大作戦に加えて頂くことができまして、我々といたしましては、これまで LOVE BLUE 事業として取り組んで参りました社会貢献活動に、ひとつの大きな「格」をつけて頂くことになりました。これまでのご配慮に心から御礼を申し上げます。



鳥羽市 木田久主一市長と

釣りに対するイメージが大きく変わる

木田市長（以下市長）：こちらから御礼のごあいさつに伺うべきところ、鳥羽市へお運び頂き、ありがとうございます。鳥羽は海女と真珠のふるさとです。私たちが大切にしている海をきれいにしていることに心から感謝申し上げます。

市長：多くの企業が志を同じくして参加されていることが本当に素晴らしい。釣りに対するイメージが大きく変わってくると思います。





鳥羽市 木田久主一市長

地域経済へ釣りがもたらす好影響

市長：鳥羽市はホテルなどの産業がありますから、釣りは大変ありがたい。

市長：LOVE BLUE のロゴもとても良いですね。鳥羽市のロゴは海女を三代続けてされている娘さんが潜っているところをデザインしたものなんです。

碧い生命の地球の環境保全が LOVE BLUE の志

会長：私たちが取り組む社会貢献事業を LOVE BLUE 事業と呼んでおりまして、碧い生命の地球、その環境の保全を大きな志として、今年で四年目を迎え、水中クリーンアップ活動をこの社会貢献事業の中心に据えながら、2015年度は39か所で150日、全国各地で活動を進め、環境大臣から感謝状を頂くなど、お陰様で、少しずつではありますが社会的な評価を頂けるようになって参りました。

そして最後に——

市長：今後とも、引き続きご尽力をお願いしたい。どうぞ宜しくお願いします。

会長：これからも業界を挙げて LOVE BLUE 事業を進めて参ります。是非ご協力を宜しくお願いします。

地域のみなさまに喜ばれる LOVE BLUE

この後、島野会長は、水中クリーンアップ活動の鳥羽市の担当者が在籍する、鳥羽マリンターミナルにある鳥羽市定期船課の齋藤貞之課長へ御礼の挨拶に訪れました。



齋藤課長：このたびは、鳥羽市の離島のライフラインである定期船の発着所周辺という安全管理が求められる場所の水中クリーンアップ活動をプロダイバーにより実施して頂きまして、本当に感謝しております。以前、水中のごみが定期船のプロペラに巻き付き、離島のライフラインに大きな影響が出たこともありました。一般社団法人日本釣用品工業会から三重県を通じて、水中クリーンアップ活動のお申し出を頂きましたこと心から御礼申し上げます。鳥羽の海と人々の生活に大きく寄与して頂きました。

会長：こちらこそ、皆様からのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。これからも頑張っ参りますのでどうぞ宜しくお願いします。

【三重県鈴木英敬知事からのお礼状】

お礼状

一般社団法人日本釣用品工業会 様

伊勢志摩サミットへのご支援とご協力、ありがとうございました。皆さまからの温かいご支援とご協力のおかげで、伊勢志摩サミットは、大きな成果とともに、無事閉幕しました。心から感謝を申し上げます。

協賛・応援・寄附などのご支援をいただくとともに、おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア、ジュニア・サミットなど様々な機会を通じて、産・学・民・官が一体となり、素晴らしい力を発揮できたことは、私たち全員の誇りです。

三重県では、伊勢志摩サミットの資産（レガシー）を三重の未来に生かしていくため、サミットの成果をチャンスとして様々な事業を展開していきます。

引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしく申し上げます。

平成28年6月

伊勢志摩サミット三重県民会議長

三重県知事 鈴木 英敬



島野容三会長



鳥羽市定期船課 齋藤貞之課長と

継続的な社会貢献としての LOVE BLUE 事業を評価



南房総市 石井裕市長

南房総市からのご要望に感謝

小島委員長（以下委員長）：2014年6月に野島漁港で水中クリーンアップ活動を行わせて頂いて以来、ご縁を頂き、ありがとうございます。翌7月の南房総白浜海女まつりにおいて、公式に参列させて頂いた際、石井市長にはご挨拶させて頂き、その節は、大変お世話になりました。

石井市長（以下市長）：こちらこそ。今年度も、乙浜漁港の水中清掃を行って頂いており、ありがとうございます。ところで LOVE BLUE 事業の水中クリーンアップ活動は、全国規模で活動されているそうですね。

委員長：はい、活動地域に偏りが出ないように、行政の皆様と連携させて頂きながら、全国規模でバランス良く水中クリーンアップ活動を行うようにしています。千葉県からは、事業開始の年度からご縁を頂き、特に南房総市は、初期の段階から快く水中クリーンアップ活動のご要望を頂きました。本当に感謝しています。

市長：乙浜漁港の他には、野島漁港と富浦漁港もお世話になっていますね。こちらこそ、感謝しています。

委員長：乙浜漁港では、今朝から水中クリーンアップ活動を行っています。今年度も活動の場を与えて頂き、南房総市との温かいご縁をうれしく思っています。私たちは釣用品メーカーの全国団体組織です。環境保全に関しては業界として釣り人に向けて啓蒙活動を行っていますが、まだまだ地球の環境に負担をかけてしまうこともあると思っています。水中クリーンアップ活動はもちろん、これからは地球環境のために、さまざまな活動を行いたいと思っています。



石井裕 南房総市長を LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長が表敬訪問

2016年4月18日(月)14:00 ~ 千葉県南房総市役所市長室

全国へ広がる社会的な信頼を 頂けたことに感謝

委員長：2014年度に南房総市の野島漁港の水中クリーンアップ活動を実施させて頂き、第50回南房総白浜海女まつりに公式にご招待頂いた社会的な信頼をもとに、LOVE BLUE 事業の水中クリーンアップ活動を全国に広げることができました。しかも1回だけで終わることなく、継続して水中クリーンアップ活動を実施させて頂いていることに関しても、改めてお礼申し上げます。1回の水中クリーンアップ活動では、キレイにできる範囲が限られています。一度清掃した場所も、時間が経つと再びごみが溜まることもある。継続して活動させて頂くことが大切だと考えています。まだまだ規模は小さいですが、釣り業界として環境に目を向けてこれからも活動を続けていこうと思っています。

LOVE BLUE 事業を評価

委員長：水中クリーンアップ活動の他にも、昨年度から「つり環境ビジョン助成」という活動を始めています。これは独立行政法人環境再生保全機構における地球環境基金企業協働プロジェクト第1号として始まったもので、水辺の環境保全を考えるNPOなど諸団体を全国規模で支援するものです。昨年度は、8団体を助成いたしました。その活動を評価頂き、環境大臣から感謝状を授与されました。

市長：それはすごいですね。さまざまな活動をされている中で、私たちの南房総市を水中クリーンアップ活動の場として選んで頂いてうれしく思っています。水の中は自分たちでは、なかなか清掃できないので、プロのダイバーの方々に水中を清掃頂けるのは、とてもありがたいです。



LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長





市長：南房総市は三方を海に囲まれているので、多くの釣り人が訪れます。南房総市の観光シーズンは冬なのですが、釣り人の皆さんには年間を通して、楽しんで頂いているようです。

今後も継続的な実施の要望

市長：南房総市での活動を引き続き宜しくお願ひします。

委員長：こちらこそ、宜しくお願ひします。私たちの活動は、やり続けることに意味があります。これからも行政の皆様、地域の皆様にご理解とご協力を頂きながら活動を続けていきたいと思ひます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。



環境保全活動に大きく貢献 環境大臣から感謝状

参加企業の皆様のご理解とご協力、そして釣り人の皆様一人一人の力を合わせて展開する LOVE BLUE 事業は、2015 年度、新たに本事業の一環として、独立行政法人環境再生保全機構と連携し、同機構による「地球環境基金 企業協働プロジェクト」の第 1 号「つり環境ビジョン助成」をスタートさせました。

この事業は、日本国内で水辺の環境保全活動等を行う NPO・NGO 等の団体に対し、その活動を支援する為の助成で、2015 年度は、全国 8 団体を支援しました。上記の事業を踏まえた、つり環境ビジョン助成の環境保全活動に対し、「環境の日」である 6 月 5 日付にて、環境大臣より感謝状をだされ、そして 6 月 10 日（水）、LOVE BLUE 委員会小島忠雄委員長が代表して、環境省を訪問し環境省総合環境政策局 小林正明 局長（当時）より授与されました。



環境省総合環境政策局 小林正明 局長（当時）と

環境省表敬訪問

LOVE BLUE 事業が取り組む社会貢献事業について、これまで積み重ねてきた実績等をご説明するため、2017年1月20日金曜日、環境省へ表敬訪問を行いました。



中央：小林正明環境事務次官、左から松下和夫京都大学名誉教授、大村一仁副会長、島野容三会長、小島忠雄顧問

島野会長より、「当初は釣り場の清掃から始めた事業ですが、今ではLOVE BLUE 事業として、例えば全国の各自治体を通じて、各地の皆様からプロダイバーによる水中クリーンアップへのご要望をお寄せ頂けるようになるなど、多くの皆様に喜んで頂ける社会貢献事業となって参りました。昨年（2016年）のG7伊勢志摩サミットでもプロダイバーによる水中クリーンアップ活動をお役立て頂くなど、様々なご要望にお応えしております。LOVE BLUE 事業は、参加企業が全ての釣用品に『環境・美化マーク』を表示し、その

売り上げの一部を自主財源として取り組んでいるものです。これからも御省と連携しながら地球環境のためにより一層努めて参りたいと思います。」と当事業について説明を行いました。



環境省小林正明事務次官を 島野容三会長、大村一仁副会長、小島忠雄顧問、松下和夫京都大学名誉教授、柿沼清英理事が表敬訪問

2017年1月20日(金) 環境省事務次官室

環境省 小林事務次官からは「今また温暖化や世界中で水の危機が起こるのではといわれる中、世界の中でも水の豊かな日本で気候の変動へ耐えて行けるような取り組みを関係省庁へ呼びかけながらご協力を頂いているとこ

ろです。その意味で、水への関心を高める取り組みという観点でも、皆様の取り組まれている社会貢献事業、大変素晴らしいと思います。今後ともぜひ頑張ってください。」などのお話がありました。



環境省事務次官室にて

茨城県龍ヶ崎市長を表敬訪問

LOVE BLUE 事業は社会貢献事業として取り組むプロダイバーによる水中クリーンアップ活動について、2017年5月12日金曜日、茨城県龍ヶ崎市 中山一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長らが龍ヶ崎市役所へ表敬訪問を行いました。



左：中山一生 龍ヶ崎市長、右：小島忠雄委員長

茨城県龍ヶ崎市中山一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、小島忠雄委員長らが表敬訪問

2017年5月12日(金) 龍ヶ崎市役所

茨城県での LOVE BLUE 事業へご理解ご協力の御礼

小島忠雄委員長 (以下委員長)：「本日は、お忙しい処、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。私どもは一般社団法人日本釣用品工業会と申しまして、釣用品メーカー125社の団体ですが、その会員企業のみならず、釣用品メーカーなど241社・団体と取り組む LOVE BLUE 事業について、茨城県では大変お世話になっておりまして、霞ヶ浦を始めとして、2015年にラムサール条約の登録湿地となられた、涸沼（ひぬま）や、御市の牛久沼でも、私どもの活躍の場を頂きましたこと、本当にありがたく思っております。心より御礼申し上げます。」

浄財を基にした、公平・公正な事業を全国で実施

委員長：「この事業は、全国の多くの釣りに関係している企業などにご参加頂き、ユーザーの皆様からの売上の一部を自主財源とした浄財を基に、地球の未来を志向する社会貢献事業として全国で活動を進めています。したがって、本事業の実施にあたっては、できるだけ公平・公正に進めて参りたいと思っております。水中クリーンアップの場所についても、釣り具のマーケットシェアに応じて、その中で管理者や利用者の皆様からのご要望をベースに優先順位を付けて順次実施をしています。」

最近では、昨年の G7 伊勢志摩サミットでも、開催に向けたおもてなし事業の一環として、



中山一生 龍ヶ崎市長

水中クリーンアップ活動を実施させて頂けるようになるなど、各地で地道に活動を進めながら、ようやく5年目となりまして、少しずつ、みなさんに知って頂けるようになり、全国各地から水中クリーンアップのご要望をお寄せ頂けるようになって参りました。また、御県では、2018年秋に世界湖沼会議が開催されると伺っております。私どもでお手伝いできることでお役に立てればと思っております。」

龍ヶ崎市は、釣りに良いところ。釣り人に沢山きて頂けると大変よい。

中山一生市長 (以下市長)：「毎年、水中クリーンアップ活動に来て頂いて、本当にありがたく思っております。当市の広報でもご紹介させていただきます。龍ヶ崎市は、牛久沼もそうですが、小貝川と旧小貝と中沼、小野川なども

ありますが、釣りをする方には良いところという話が定着しているということは大変嬉しく思います。以前は観光協会で釣り大会なども催されていたこともあり、釣り人の皆さんに沢山来て頂けると大変良いと思います。」

水中クリーンアップで釣りのイメージアップに。そしてマナーを守った釣りを。

市長：「一方で、やはりマナーの問題が、ハクチョウがいたりするところで、色々問題があったこともありますが、最近はそうでもないのですが、針とか糸というマナーを問題視する方もいらっしゃるのも事実ですので、水中クリーンアップ活動をされることで、イメージアップにつながると思います。龍ヶ崎市としては、ちょうど牛久沼のこれからに向けて、動き出すタイミングに御会とのご縁がぴったりあります。釣り人の皆さんにとってもそうだと思いますが、あれだけきれいな自然環境の中に、人がたくさん来て自然を楽しんだり、ゆっくり時間を過ごすような場所があればということで、道の駅を牛久沼の水辺に整備しようとしているところで、そうなればまた釣り人の方にも駐車場と

してご利用頂けると思います。今後の取り組みについて、良い連携ができましたらと思います。」

委員長：「我々も LOVE BLUE 事業に関する委員会で毎月一回程度、事業推進の検討を真剣に取り組んでいます。お役に立てることがありましたら、色々お知恵をお借りしながら、お仲間に入れて頂くと非常にありがたいです。なかなか行政とこのようなご縁を結ぶのは大変なことなので、これを機に、共に一生懸命に水辺を守るといふんでしょか、そのためにどうすれば良いかということが全国各地で進めば良いと思います。」

環境を第一に進める、LOVE BLUE 水中クリーンアップ活動

委員長：「割と関東圏は人口が多いですし、釣り人も多いですが、今は、残念ながら釣る場所がだんだんと減ってきておまして、ご理解の頂けるような場所を私どもとしても優先的に協力させて頂き、共に良い関係構築ができればと私自身は思っております。今まで、海面の港湾や漁港などからのご要望や、内水面の琵琶湖や霞ヶ浦などをはじめとした湖沼・河川などのご要望も頂いております。」



2016年7月11日から7月15日まで実施した、牛久沼での水中クリーンアップ活動

当会が進める水中クリーンアップ活動は、水辺の環境保全に重点を置き、社会貢献事業として取り組みを進めております。したがって、各地の管理者や利用者の皆様からのご要望にお応えするよう、一生懸命に水中クリーンアップ活動をさせて頂くという考え方を第一に進めています。」

市長：「だから水中の不法投棄や様々なゴミの回収に、お取り組みになっていらっしゃるわけですね。牛久沼は河川区域ということもあり、茨城県の竜ヶ崎工事事務所さんとも、大変ありがたいという話になっていました。色々清掃頂きありがとうございました。」

委員長：「プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、事業開始以来、一切無事故でございまして、安全管理についても相当神経を遣ってやらせて頂いております。期間としては3日～5日間程度を基本として、1日4回、4名のダイバーが年間通して潜水しております。」

釣りは文化、奥が深い。そして、牛久沼も懐が深い。

市長：「それにしても、奥が深いですね。釣りの世界というのは。日本の竿でも鑑定番組に時々出てきますが、びっくりするような値段が付きますよね。骨董的な価値もさることながら本当に文化ですね。釣りも。」

委員長：「そうですね、太公望といわれる時代から、今でも好きな方は本当に凄いです。本当にこの文化が少しでも皆さんに愛され



小島忠雄委員長

て、伸びて行くことを願うばかりです。そのために、我々でできることを少しずつ恩返しさせて頂こうと取り組んでいます。」

市長：「水辺のスポーツなど色々楽しめる、その意味でも、牛久沼ももの凄く懐が深い、奥が深いですので、色々な形で楽しめる場所になるのではないかと考えています。」

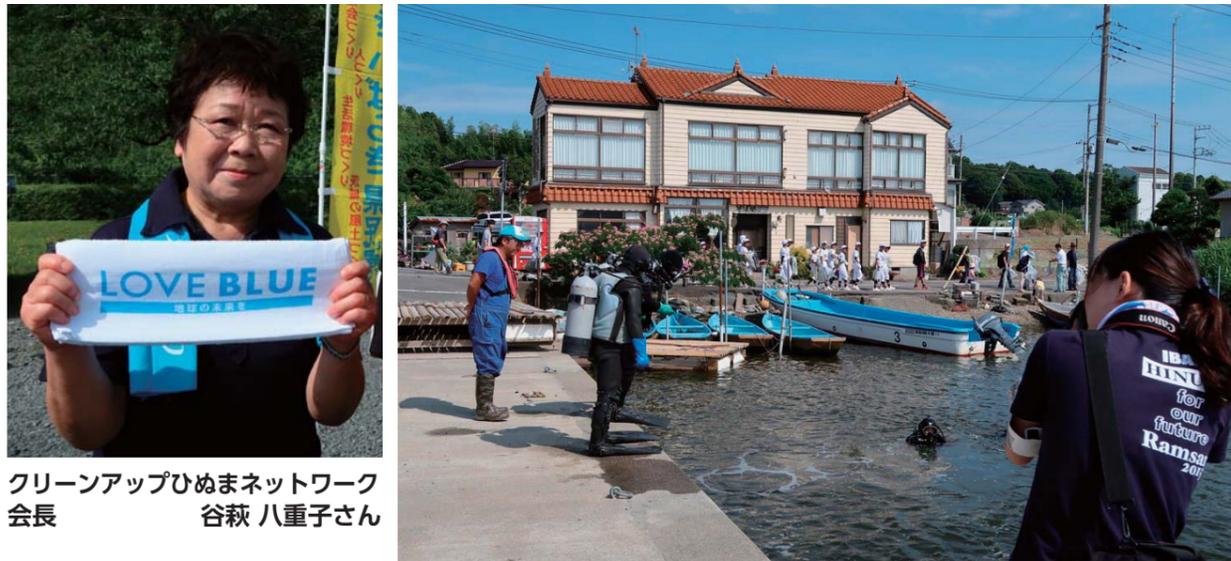
LOVE BLUE 事業は全国で喜ばれる事業

市長：「いずれにしても、我々龍ヶ崎市はもちろんですけども、LOVE BLUE 事業は全国できっと喜ばれる事業だと思いますので、是非頑張って頂ければ、皆さんも喜ばれると思いますので、牛久沼も含めてよろしくお願ひします。『LOVE BLUE』というのが良いですね。さわやかな清潔なイメージで。今日は、かえってご丁寧にご来訪頂きましてありがとうございました。」

委員長：「こちらこそ貴重なお時間を頂きありがとうございました。これからも茨城県下を含め頑張って参りますので、ご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。」

茨城県東茨城郡茨城町 涸沼

技術や装備をもつプロダイバーの
水中クリーンアップ活動に感謝しています



クリーンアップひぬまネットワーク
会長 谷萩 八重子さん

実施経緯 茨城県、クリーンアップひぬまネットワークよりご要望を頂き実施

LOVE BLUE 事業 水中クリーンアップ活動が 涸沼のラムサール条約登録の一助に

茨城県をはじめ、地元の市民団体の皆様と一緒に涸沼で実施した水中クリーンアップ活動では、これまで積み重ねられた地元の皆様の陸上の清掃と心を合わせてプロダイバーによる水中の清掃を実施させて頂いた結果、2015年5月涸沼は晴れてラムサール（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する）条約の登録湿地となりました。（涸沼における水中クリーンアップ活動は、2014年度より実施）



茨城県かすみがうら市 霞ヶ浦 大岩田舟溜

霞ヶ浦にとって大変意義深い



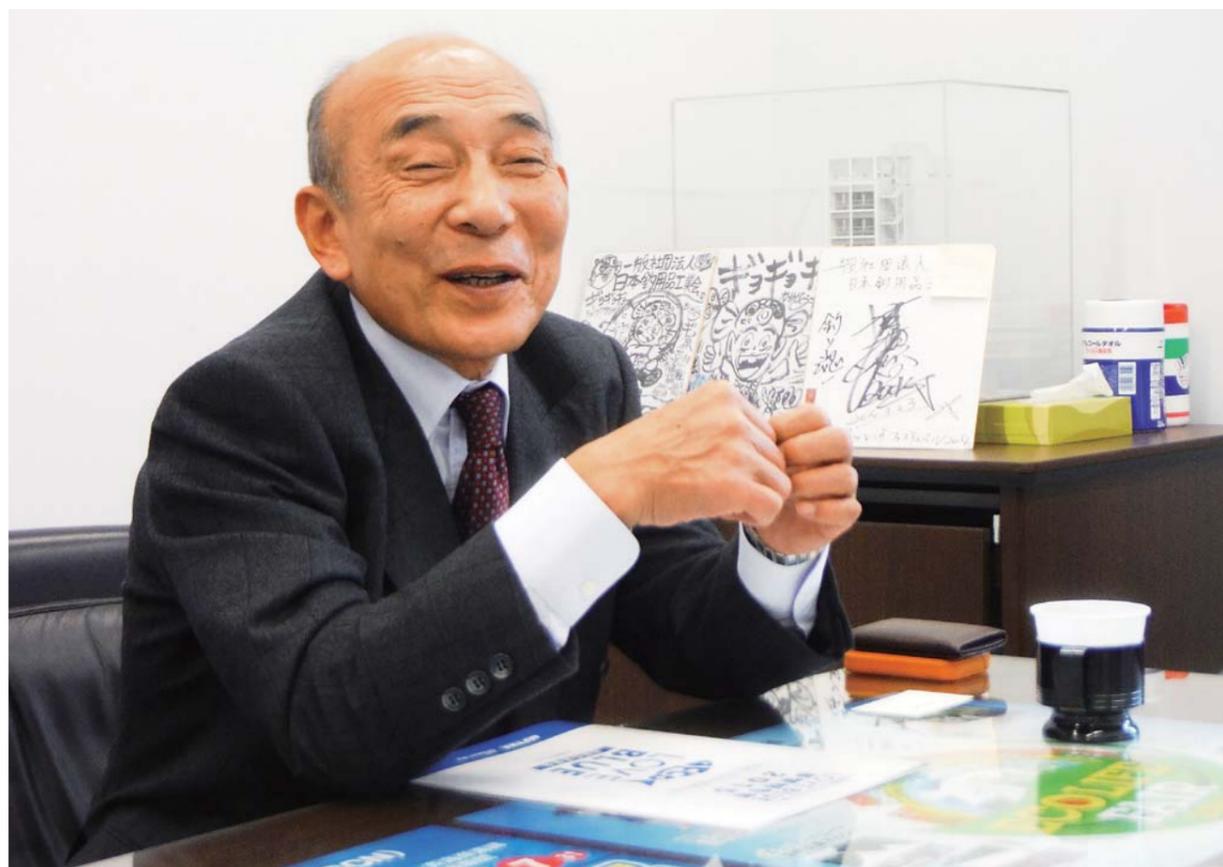
霞ヶ浦問題協議会
会長（土浦市長） 中川 清さん



実施経緯 茨城県、霞ヶ浦問題協議会、霞ヶ浦漁業協同組合よりご要望を頂き実施

漁業協同組合の皆さんからの感謝の声

2016年11月30日水曜日、石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長 小泉 一明さんが、一般社団法人日本釣用品工業会の事務所を訪問され、水中クリーンアップ活動のお礼を述べられました。



小泉運営委員長

漁業者の皆様のご要望に沿うような作業の実施

事務局：本日は、事務所までお運び頂きましてありがとうございます。

小泉運営委員長（以下 委員長）：前波漁港も、おかげさんできれいになりました。

事務局：我々に活躍の場を与えて頂いて、ありがとうございます。本当にお世話になりました。皆様方のご理解・ご協力を頂いて、何とか実施させて頂いております。

委員長：いえいえ。本当にとんでもないです。

事務局：実際に水中クリーンアップ活動に我

小泉 一明 石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長が来訪

2016年11月30日(水)10:30～ 東京都中央区 日本フィッシング会館 5階

々が入らせて頂いて、地元の皆さんの反応というか、そういうのはどうですか。ご迷惑になっていないでしょうか。

委員長：本当に喜んでいきますよ。自分たちの要望に応じて、清掃をやって頂ける。例えば、保管してある漁具等には触らないとか。私らも作業の現場を見て、プロのダイバーの皆さんにお話を聞いたりして初めて分かったんですけど、本当にそのままにもらえる。

地域の特性の応じた清掃

事務局：我々が現地を視察した際、委員長にもご同行いただきましたが、雪が降っていて、本当に寒い中で波の音と雪の降る風しか聞こえないような。春先も、雪解け水が出てきてかなり水中は冷たいとか、ご指導頂きました。

委員長：ありました。ありました。

事務局：石川県内での実施だけではなく、他県でも地元の方にご指導頂き、経験を積ませて頂いています。

委員長：こちらこそ、本当にありがとうございます。



2016年5月20日から5月22日まで実施した、前波漁港での水中クリーンアップ活動

漁業協同組合の皆さんからの感謝の声

2016年6月28日火曜日、山形県鶴岡市鼠ヶ関港にて、山形県漁業協同組合 念珠関統括支所 佐藤修 統括支所長にお話を伺いました。



佐藤修 統括支所長

地域の皆様のご要望に沿った水中クリーンアップ活動

事務局：本日は、お忙しい中お時間を頂きましてありがとうございます。また、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動をご要望頂きましたこと、改めましてお礼申し上げます。

佐藤統括支所長（以下統括支所長）：こちらこそ、ありがとうございます。

事務局：ここ鼠ヶ関港での水中クリーンアップ活動は、3年目となり地域の皆様にとってどのような印象でしょうか。お役立て頂いておりますでしょうか。

統括支所長：本格的な装備で、無料でしかもゴミの処分までやってもらえる。こんなうまい話が本当にあるのかと思っていました。でも実際清掃に入ってもらって、こちらの要

佐藤修 山形県漁業協同組合 念珠関統括支所統括支所長に伺う

2016年6月28日(火) 山形県鶴岡市鼠ヶ関港

望通り作業をしてもらえるし、何よりも作業員の方々は礼儀正しいし、いつも気持ちの良い挨拶をしてくれる。本当にありがたいと思っていますよ。

事務局：日本全国どこでも、まずは地元に皆様方から清掃へのご要望を頂き、そして丁寧にお話を伺い、地元ならではのルールに沿って清掃をさせて頂いています。

統括支所長：漁師は水中のどこにゴミがあるかわかってはいても、船が小さいし、まず潜る技術がない。本当に助かっています。



緑の旗がお貸し頂いた漁連の旗です

漁業協同組合との連携 作業にあたり、組合の旗をお借りしました。

事務局：清掃にあたりまして、山形県漁業協同組合の皆様からのアドバイスで、組合の旗をお借りいたしました。見慣れない作業員が、海中に潜っていると地域の皆様に不安を与えてしまいます。旗をお借り出来たことで、そういった問題を解消することが出来ました。

統括支所長：季節外れに潜っていると、住民や漁師が心配するからね。この旗が出ていると安心です。問い合わせがあってもスムーズです。

第36回全国豊かな海づくり大会 ~やまがた~ との連携

事務局：今回のプロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、第36回全国豊かな海

づくり大会~やまがた~と連携させて頂いています。大会記念行事として頂いての実施となりました。これも私たちの活動をご要望頂き、ご理解とご協力あつてのことです。本当にありがとうございます。

統括支所長：漁港がメインの場所で開催するのは珍しいと思うけど、大会前に会場を清掃してもらえるのはうれしいよね。皆さんをきれいな場所にご案内できる。

事務局：皆様のお役に立てるようこれからも水中クリーンアップ活動を行ってまいります。今後とも宜しくお願いします。

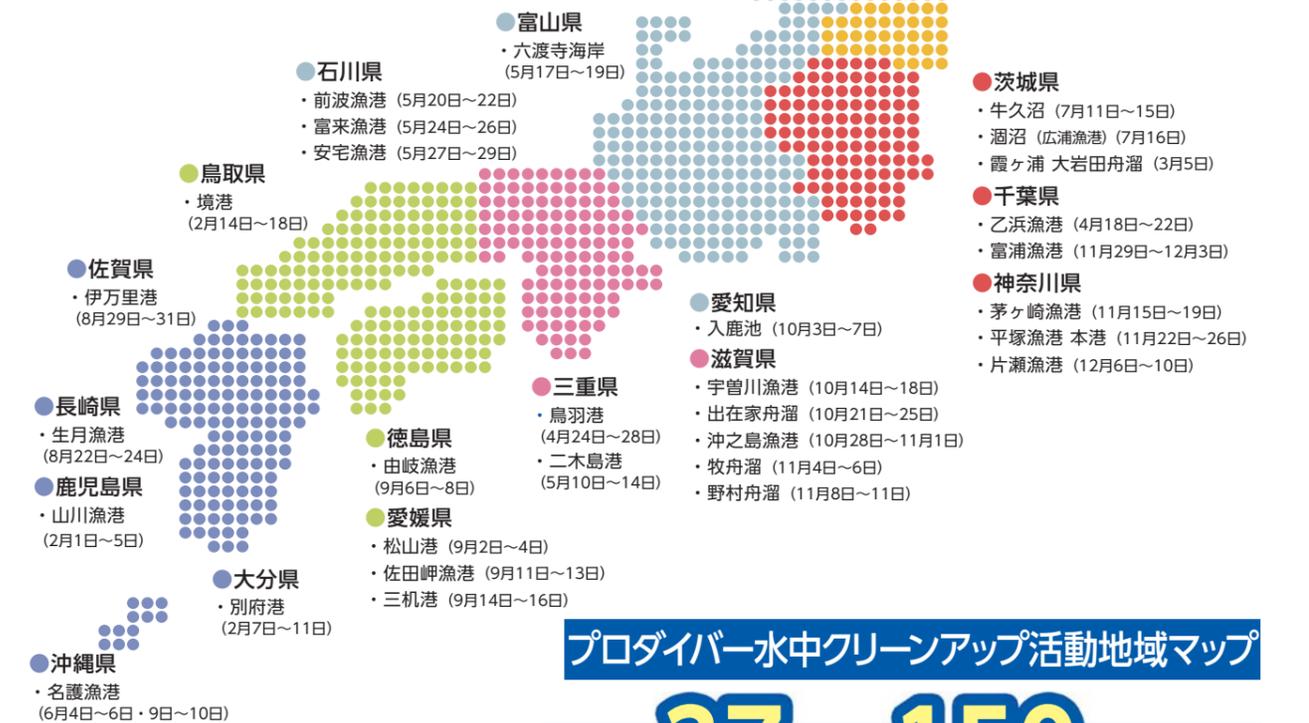
統括支所長：こちらこそ宜しく。お世話になります。

全国に広がる感謝の輪 ～水中クリーンアップ活動編～

碧い生命の地球、その環境保全を大きな志として、LOVE BLUE事業では、公平性の観点から全国を7ブロックに分け、当会実施の客観的なアンケート結果を踏まえ、全国の各都道府県・市町村、漁業者などの皆様からのご要望を基に実施場所の選定を行い、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動を実施させて頂いています。

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動に際しては、陸上と水中の常時無線交信設備を装備するなど、万全の安全管理を徹底し、関係機関への許可・届出・周知等を整えて実施しております。また、回収したゴミは産業廃棄物として責任をもって適切に処分しています。

LOVE BLUE事業で実施する、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、2013年度の事業開始より2016年度に至るまで、4年間累計25道県121箇所485日を無災害で進めています。



プロダイバー水中クリーンアップ活動地域マップ

全国 **37** 箇所 **150** 日実施
(累計 **485** 日実施)

大分県別府市 別府港



大分県別府土木事務所管理課 副主幹 佐藤 元一さん



寒いなかありがとう

「実は、私が釣り好きということもあって、LOVE BLUEの水中クリーンアップ活動のことは知っていました。また、私自身、海を守るために清掃活動をするにはとても関心がありましたので、今回のお話をお受けさせていただくことにしました。別府の海は、この時期が一番澄んで美しいのですが、玄界灘からの北風が山を

超えて吹いてくるため気温が下がり寒いのです。夜は鶴見岳からの吹き返しの風も強いです。だから今回、水中クリーンアップ活動を行う皆さんの様子を拝見し、『寒いなか、申し訳ないなあ。でも、ありがたいなあ』と強く思いました」

別府港のプロダイバーエントリー動画です。



実施経緯 大分県よりご要望を頂き実施

三重県熊野市 二木島港



熊野漁業協同組合 理事 山下 眞次さん



海の中の清掃は本当にありがたい

「二木島港は湾の奥やから、流されてきたゴミが溜まりやすいんでね。僕らも岸壁の上は掃除するけど、海の中は専門の技術や装備がいるし、お金もかかるし、自分らではできないでしょう。だから、みんな『ありがたい』と言っているよ。水中クリーンアップ活動が始まって一番びっくりしたのは、作業員さん

たちがみんな礼儀正しいこと。誰かが通るたびに丁寧に挨拶してくれるから、ここの若い子らもみんな感心しとったよ。水中クリーンアップの時はちょうど、潮が巻いて海の底が濁っていたから、作業も大変だったと思うよ。ここは黒潮だけじゃなくて、底から入り込んでくる潮もあるからね。」

実施経緯 三重県、三重県漁業協同組合連合会、熊野市、熊野漁業協同組合よりご要望を頂き実施

徳島県海部郡美波町 由岐漁港



美波町由岐支所 浜 大吾郎さん

美しい自然環境を次世代につなげる
LOVE BLUE 事業の理念と同じ思いを持っています



「水辺をきれいにすることで、美しい自然環境を次世代につなげる。その LOVE BLUE 事業の理念は、“この地域を今よりもっとよくして次の世代に託したい”という私たちの思いと同じだと感じました。由岐では今も、子供は地域で育てるもの、という考えが残っています。その

良さを私たちが実行して、次の世代につなげなければと思っていますが、故郷を守るためには今回のように外部の力をお借りすることも必要です。小島さんのお話を聞いたり、プロのダイバーの仕事に触れたりすることが、子供たちにとって、とてもいい刺激になったと思いますね。」



美波町産業振興課 小林 大起さん

子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識

「由岐の魅力は、昔ながらの漁師町の雰囲気がそのまま残っているところです。日々の暮らしと海との関わりがとても親密で、地元の人たちが積極的に海に関わってきた町なのだろうと感じています。海との関わりが深い町だからこそ、海と向き合う姿勢を考えることは大事。水中クリーンアップ活動や環境教育授業が行われたことで、子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識したはず。これを機に、漁業の町・由岐がさらに活気づいたらいいなと思っています。」



東由岐漁業協同組合 代表理事組合長 宮本 勝さん

海の中は自分たちで
清掃できないのでありがたい

「地元の人には、水中クリーンアップ活動のことを『こんだけの機材を使ってしてくれるなんて、ごっつええなあ』言うてましたね。由岐での漁は、6月1日から9月中旬まで、アワビやトコブシ、サザエのかつぎをする(素潜り漁)のが中心。だから例年、5月31日にみんなで漁場に潜って、有害生物の除去をするんです。また、台風が来ると南風に乗って枝やらゴミが流れてきて、港の中に溜まるから、それをほうきで集めたりしています。いろいろやってはいるけど、海の中は自分たちで掃除したくてもなかなかキレイにできないから、水中クリーンアップ活動は、ありがたいですよ。」

実施経緯 徳島県、美波町、西由岐漁業協同組合、東由岐漁業協同組合よりご要望を頂き実施

LOVE BLUE 水中クリーンアップと地元の教育プログラム「水プロ」が連携し由岐小学校で全校児童の皆さんに小島忠雄委員長が環境教育を実施!



由岐小学校 校長 池本 一彦 先生

自然を愛する心は郷土を愛する心につながり、社会や周囲の人々を愛する心につながるはず。そうした意味でも、環境教育授業は非常に意義があります。



由岐小学校 6年担任(当時) 張間 尚久 先生

本校環境教育授業の一環として、由岐漁港の水中クリーンアップ活動の様子を見学させて頂き、ありがとうございました。普段自分たちの地域の財産である美しい海をきれいにしようと取り組んでおりますが、海中に対する意識は低く、また清掃もできないため、貴重な体験をすることができました。これをきっかけに、これから美しい海を守ろうとする児童を育てていきたいと思っております。

素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝申し上げますとともに、貴団体の活動が今後益々発展されることを祈念申し上げます。大変ありがとうございました。

LOVE BLUE の
環境授業を終えた
児童の皆さんからの
感謝の手紙 (一部)

今日は、海中清掃についていろんな事を教えてくださりありがとうございました。海の中にオーブントースターや自転車などがありおどろきました。去年も来てくださり東由岐漁業を清掃してくれて、今年は、キャンペットボトルなどの小さいゴミが、少しへっていたと思いました。海にゴミを捨てると、自分にもかかわってくるという事が分かりました。なので絶対にゴミはゴミ箱に捨てたいです。そして、海にいる魚や海藻や貝類などが、ずと食べれるようにしていきたいです。今日、海中清掃について教えてもらった事を、これからいろんな事に生かしていきたいです。海が少しでもきれいになるようにしていきたいです。

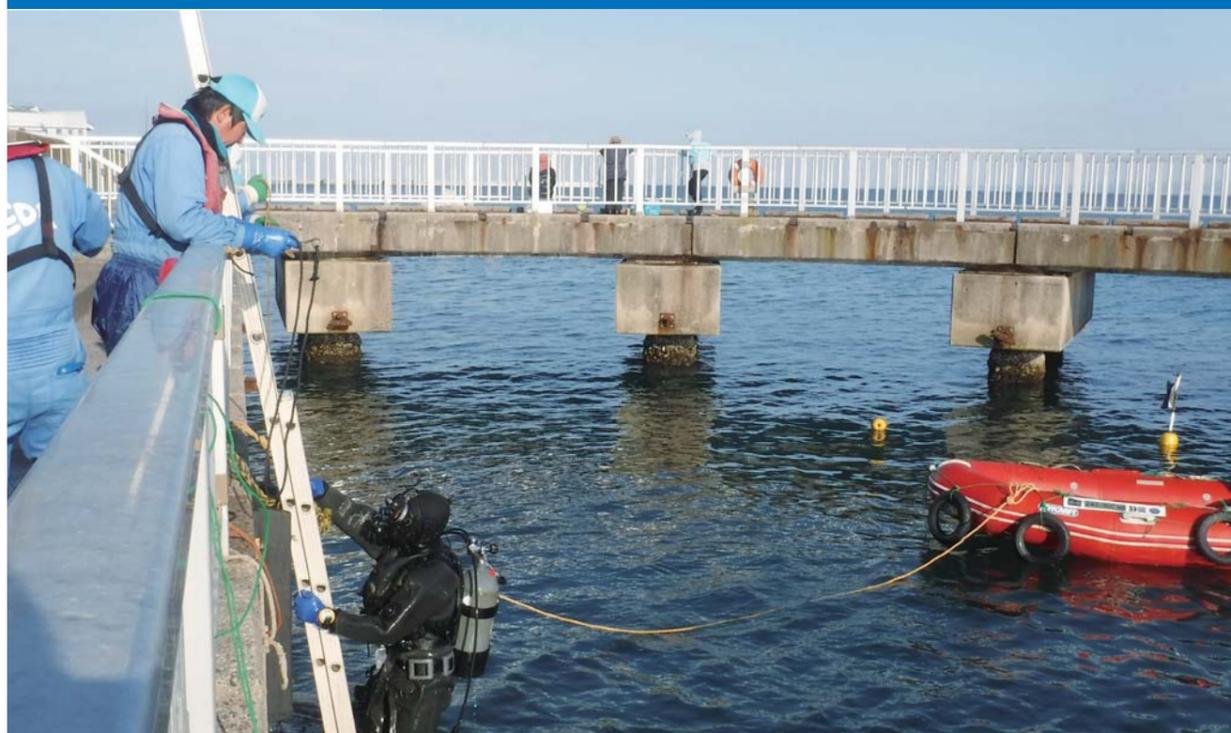


由岐小学校 6年 戎井 那奈

由岐小学校 6年 戎井那奈さん(当時)

鳥取県境港市 境港

しゅんせつ
浚渫できない場所を清掃してもらえるのはありがたい



船が行き交う港の中は、海底が浅くならないように浚渫を行いますので、その際にゴミを取ることができます。しかし、今回、清掃いただいている棧橋付近は浚渫することがありませんので、きれいにしていただけるのは本当にありがたいですね。水中クリーンアップ活動がどのように行われるのか、私もとても興味があ

ります。あの棧橋は、鳥取県のなかでも特に伯耆富士がきれいに見える場所ですから、棧橋も海のなかも、きれいであって欲しいですね。(境港管理組合 港湾管理委員会事務局 総務課 造営係 係長 川本 英生さん)

境港初日の映像がこちらからご覧いただけます。



実施経緯 鳥取県、境港管理組合よりご要望を頂き実施

鹿児島県指宿市 山川漁港

素晴らしい活動の輪



【山川町漁業協同組合 代表理事組合長 川畑 秀二さんからのお礼状】

日本釣用品工業会
柿沼 清英 様

平成29年2月7日

山川町漁業協同組合
代表理事組合長 川畑 秀二

水中クリーンアップ活動について (お礼)

拝啓 春寒の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は水中クリーンアップ活動による山川漁港水中清掃作業を5日間にわたり実施して頂き誠に有難うございました。

初日は小春日和を思わせる温かい日でしたが、最終日は寒雨の中での実施となり厳しく危険な作業であったと思います。改めてお礼申し上げます。

今回水中清掃作業を実施して頂き、改めて海中の美化に関心をもちました。

日頃水中にゴミを見つけても技術や装備がないと諦めており、このような作業をしない限り水中にあるゴミは永遠に変わらないと実感致しました。

当組合も組合員清掃作業を実施しておりますが、回収したゴミにビンや缶が多いと聞き、ポイ捨てを減らす手段も何か考えていかなければならないと思っております。

美しい海を未来へ残せる様、当組合も頑張って参ります。

貴社の更なるご健勝とご活躍、そしてこの様な素晴らしい活動の輪がますます広がります様心よりお祈り申し上げます。

〈抜粋〉

今回水中清掃を実施して頂き、改めて海中の美化に関心をもちました。

日頃水中にごみを見つけても技術や装備がないと諦めており、このような作業をしない限り水中にあるゴミは永遠に変わらないと実感しました。当組合も組合員清掃作業を実施しておりますが、ポイ捨てを減らす手段も何か考えていかなければならないと思っております。美しい海を未来に残せる様、当組合も頑張って参ります。

実施経緯

鹿児島県、鹿児島県漁業協同組合連合会、山川町漁業協同組合よりご要望を頂き実施

プロダイバーによる 水中クリーンアップ活動の様子

① 事前の計画、関係各機関の了承とご理解とご協力を得た上で、作業に入ります。



② 作業従事者は、作業開始前に全員でミーティングを行い、お互いに体調や服装等を確認したのち、作業場所や天候等から想定される危険を議論する危険予知活動を行います。その後、潜水機材の確認を行います。



③ 潜水開始前にも潜水機材の点検確認を十分行います。水中間及び水中陸上間の通信を可能にする無線機も装備しています。(写真右:中央オレンジ色は、水中に浮かべる無線中継器)



④ エントリー時にダイバー及び潜水補助員の両方で周辺の安全確認を行います。



⑤ エントリー後も改めて、ダイバー同士が体調の確認、器材の点検等を行った後、潜水を開始します。

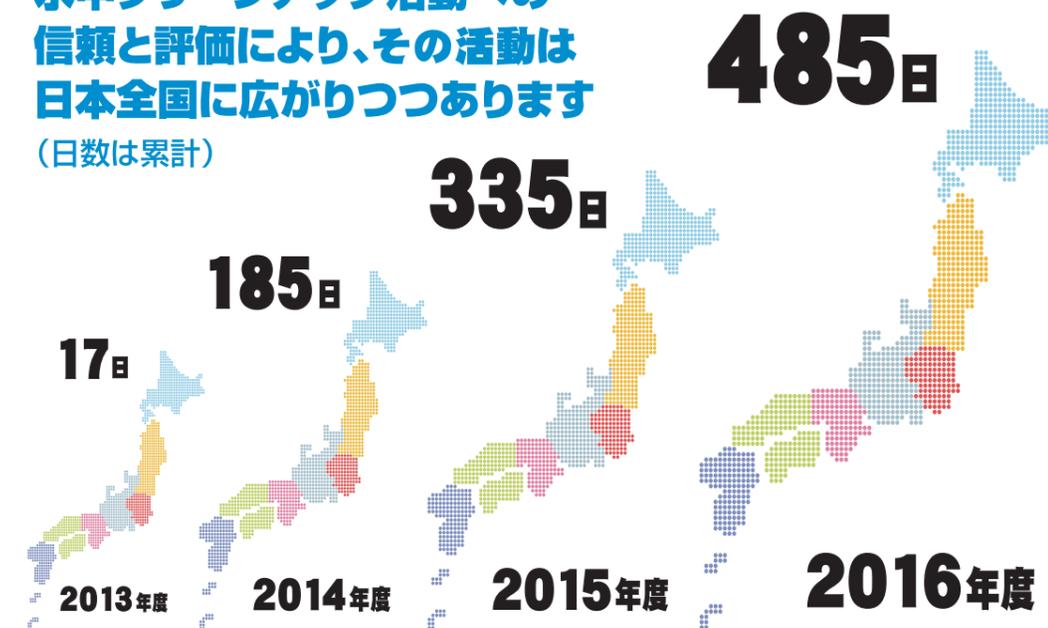


⑥ 作業終了後のミーティングでは、本日の作業内容の振り返りや明日の作業の確認などを全員で行います。



⑦ 安全第一の作業と熟練の技術で事業開始以来 485 日間無災害を継続しています。

**社会貢献として実施するプロダイバーによる
水中クリーンアップ活動への
信頼と評価により、その活動は
日本全国に広がりつつあります**
(日数は累計)



全国に広がる感謝の輪 ～地球環境基金 企業協働プロジェクト編～

つり環境ビジョン助成

独立行政法人環境再生保全 機構地球環境基金とは

当時の環境庁（現・環境省）が中心となり、民間団体（NGO・NPO）による環境保全活動への資金の助成その他の支援を行うため、1993年5月に創設されました。

1993年度から2016年度までに延べ4,640件、総額156億円の助成を行うなど、NGO・NPOの環境保全活動を積極的に支援しています。

地球環境基金企業協働プロジェクト・ つり環境ビジョン助成とは

地球環境基金の支援する活動の中で特定の活動に対して支援をしたい寄付者の「想い」を反映させたプログラムです。

地球環境基金のビジョン・ミッションの範囲の中で、助成対象・分野・金額に独自性があり、選考などには、寄付者の「想い」が反映されます。

つり環境ビジョン助成は、一般社団法人日本釣用品工業会より寄付された資金によるものであり、清掃活動など、水辺の環境を構築するための助成金となっており、また4万人近い来場者があるジャパンフィッシングショーのメインステージで報告会も実施して頂いています。

なお、2017年度よりつり環境ビジョン助成から LOVE BLUE 助成へと名称変更いたしました。



つり環境ビジョン助成では、当会主催のジャパンフィッシングショー（神奈川県横浜市パシフィコ横浜）のメインステージにて4万人近い来場者に向けて助成団体に活動報告会を実施して頂いています。

2016年度は、岐阜県のNPO いびがわみずみずエコステーションの岩間誠事務局長と岡山県のNPO グリーンパートナーおかやまの藤原瑠美子理事長にご登壇頂きました。



いびがわみずみずエコステーション 活動発表



グリーンパートナーおかやま 活動発表

全国 8 団体を助成 (2年間累計 16 団体助成)

島根県

NPO

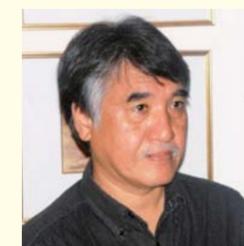
アンダンテ 21

協働と次世代育成をめざした 益田市水環境保全プロジェクト

私たちは、学校や地元組織と協働して清掃活動と自然・環境教育を統一させた野外イベントの開催や環境保全に関する啓発活動を行いながら、地域の水環境保全のプレイヤーとなる次世代の育成に取り組んでいます。



これまでは、高津川を中心とした水環境保全とまちづくり活動を行ってききましたが、活動範囲を海にまで拡大することが出来ました。



理事長 豊田 武雄さん

岐阜県

NPO

いびがわみずみず みずエコステーション

西濃地域における揖斐川流域クリーン大作戦・アース デイいびがわ、揖斐郡地域におけるいび地域環境塾

私たちは、揖斐川流域クリーン大作戦では、毎年ゴミゼロの日に近い5月最終土曜日にゴミ拾いと水質検査、鮎の放流などを行っています。また、いび地域環境塾では、小学生以下の親子を対象に環境に関する体験講座を実施しています。アースデイいびがわでは、毎年10月に地産地消やフェアトレードをテーマとしたイベントなど行っています。



職員を雇用し行政や企業、NPO、参加店舗、各種団体などとの後援や協力依頼、連絡調整などをスムーズに行いながら活動を実施することが出来ました。その結果、昨年度に比べ1自治体、300人の参加者を増やすことが出来ました。



理事長 中村 賀久さん

岡山県

NPO

グリーンパートナー
おかやま海ごみから流域環境を考える
プロジェクト

私たちは、自然環境保全を訴えるシンポジウムの開催や海底ごみの回収をしています。日頃目に触れることのない「海底ごみ」を、底引き網船で引き揚げ「見える化」するとともに、ワークショップで参加者が議論することで、ポイ捨て防止などの行動改善に繋がります。身近な環境におけるごみ問題を意識してもらうために海ごみの発生原因の一つである川ごみの調査や清掃を行い環境改善に繋がっています。



「海ごみについて知り」「ごみの実態を体感し」「解決に向けて行動する」という一連の流れを単年度で行えるようになり、実践的で効果的な啓発活動が出来るようになりました。また、地球環境基金や日本釣用品工業会からの支援が団体の信頼感に繋がり、参加者の幅が広がりました。



理事長 藤原 瑠美子さん

山形県

NPO

公益のふるさと創り
鶴岡鶴岡市内川流域の繁茂した藻刈りを市民
参加型で実施する体制構築プロジェクト

私たちは、市内の中心地を流れる内川を市民に親しまれる川にするために様々な活動を行っています。特に夏に行う藻刈り活動は、江戸時代より続いている伝統的な風物詩になっています。この藻刈りは内川の川辺の景観形成及びゴミ散乱防止に寄与しています。しかし、重労働のため人材の確保が出来ず、活動が滞っているのが現状です。このような内川の保全活動を市民が自ら実施することを目的として活動を続けています。



内川の水質調査及び植生や水生生物の調査をすることが出来ました。40年前に調査したデータと比較した結果、格段に水環境が改善したことが分かりました。藻刈り活動においては、上流部まで藻刈りをした実績から効率良く活動するための人員や日数を知ることができ、5人の活動リーダーを育成することが出来ました。



代表理事 風間 富士子さん

広島県

NPO

自然環境ネットワーク
SAREN広島湾を始めとした瀬戸内海の漂着ゴミ削減
に向けた調査・研究及びゴミ回収実践活動

私たちは、美しい瀬戸内海の実現、海洋生物の保全などを目的として、海ゴミの効果的な回収と拡散防止に向けての調査研究だけでなく、海ゴミ回収と漂着物を利用したアート作品づくりなどを行っています。



広島湾周辺で発生した海ゴミの実態を把握する調査をすることが出来ました。これにより、海ゴミの拡散防止に向けて、効果的に回収するための基礎的な資料を作成することが出来ました。



理事長 阿部 功さん

石川県

NPO

能登半島
おらっちゃんの里山里海能登の“里海”文化の
継承と保全

私たちは、活動のテーマとして、里海を「知る」、里海を「守る」、里海を「楽しむ」の3つをあげ、「知る」活動では、海岸エリアのモニタリング調査やお魚ワークショップ、「守る」活動では、里海のクリーンビーチと里山の森づくり運動、「楽しむ」活動では、子どもたちの渚遊びなどを実施しています。



設立当初から里山と里海で活動してきましたが、里山の保全・活用に力を注いでいた為、里海に関しては十分な活動が出来ませんでした。助成のおかげでようやく懸案となっ



理事長 加藤 秀夫さん

いた里海の保全・活用に手を付けることが出来ました。

鹿 児 島 県

誇れるふるさと
ネットワーク与論島における365日の海岸清掃活動
と大学生との協働による海域調査

私たちは、与論島の海岸や周辺海域の環境保全と地域住民の環境意識の向上を目的として、毎日の自主清掃とそれを習慣として拡げるためのごみステーションの設置、活動開始から1,000日目に合わせて実施するごみ拾いイベントや生活排水の実態調査、環境教育に関する講座開催、活動報告会などを実施しています。



これまでは他国や他の地域から流れてくる漂着ごみを回収するイベントとしての海岸清掃を行っていましたが、地域内の習慣として根付かせる新たな動きとして、ごみステーションの制作・設置へと着手し、与論町役場の環境課だけではなく、商工観光課も加わりより地域全体として取り組み始めることが出来ました。また、今年度は海の中の水質改善を図るための講座やイベント、生活排水調査へと活動を拡げました。



会長/代表 池田 龍介さん

神 奈 川 県

NPO

ワールド
オーシャンズデイアマモ場育成を通じた地域連携
ネットワークの構築(鎌倉・腰越)

私たちは、国連が定めた「世界の海の日」＝「ワールドオーシャンズデイ」(世界70カ国750ヶ所で同時に実施される海の環境を考える取り組み)にたったひとりでのビーチクリーンから数千人が集まる音楽フェスや映画祭まで、国内でも、世界の海の日を祝うイベントの開催を呼びかけています。海のゆりかごと呼ばれる海草「アマモ」を湘南の海に取り戻そうと、地元の漁業協同組合やダイビングショップ、学校などと一緒にアマモの植付け活動をはじめました。稚魚の育成に役立ち、二酸化炭素の吸収や波を抑える効果が高いとされるアマモ場の育成とビーチクリーンアップなどを地域一丸となって行っています。



計画的なアマモの植付けや、アマモを植える場所の海岸や海中の清掃、アマモ場の底質調査などを実施することが出来ました。これまでの計画的なアマモの植え付けにより、750本のアマモの定着が確認されました。



代表理事 武田 真由美さん

専門機関と連携した放流

LOVE BLUE 事業は、2013年度より栽培漁業の専門機関である(公財)神奈川県栽培漁業協会と連携し、マダイの稚魚の放流を実施しています。受精卵から孵化させ、放流に適したサイズになるまで育成します。2013年夏から東京湾の金沢①、久里浜②、松輪③の3地区沖合に毎年約20万尾放流をしています。また放流後の効果測定にも取り組んでいます。



放流地点は東京湾口の3地点



上段写真(公財)神奈川県栽培漁業協会

約 **20** 万尾放流 (4年間累計 約80万尾放流)

専門機関と連携した放流事業

1. 海に出るまで



(公財)神奈川県栽培漁業協会の施設内の大型円形水槽で孵化及び育成



孵化後 2 週間：5 月 2 日



孵化後 6 週間

写真提供：(公財)神奈川県栽培漁業協会

2. 海での育成



中間育成施設(海上生簀)へ移動：6月7日



中間育成施設(生簀)の様子：6月16日



6月23日
生簀で元気に泳ぐマダイの稚魚が動画でご覧いただけます。



放流前に全長や重量、鼻腔隔壁の欠損等を調べる：7月28日



3. 放流作業



放流：7月29日



放流の様子が動画でご覧いただけます。



釣獲調査：4月21日 体長穿孔カードを使い、釣れたマダイの体長や鼻腔欠損の有無などを記録していきます。



放流で東京湾口へ旅だったマダイ達は
約3年で約30cm
まで成長すると見込まれています

※原寸大



2017年4月21日 釣獲調査にて

<釣り人の皆さん>

- 東京湾のマダイの放流は知っているよ。放流マダイと天然マダイの違いは、鼻の形で見分けるんだよね。
- マダイが釣れるのは、放流のおかげだったんだね。だからこうしてマダイ釣りが楽しめるんだね。
- シーズン中は週1回のペースで(神奈川県横須賀市)久里浜沖(LOVE BLUEの放流地点)にマダイ釣りに来ているよ。「放流か天然か」あまり気にしないよ。マダイが釣れ、楽しめることが大事なんだよ。

<漁業者・遊漁船・釣り船店の皆さん>

- 横須賀市東部漁業協同組合久里浜支所長 鈴木良司さん
「久里浜で遊漁船をやっている釣り船店はすべて、真鯛を放流していることに感謝しています。自然の営みだけを頼りにした天然マダイだけでは、遊漁船は成り立ちません。久里浜沖にはマダイがいる。そういう風になんかみんなが認識できる状況がずっと続いていることがすごいことなんだよ。」
- 同 元支所長 榎本峯男 さん
「久里浜の遊漁船は、LOVE BLUE 事業が毎年久里浜沖に放流していることにとても感謝しているし、ありがたいと思っています。」



放流マダイと天然マダイ

放流マダイは、ほとんどの個体で、本来は片側に2つある鼻の穴が「鼻腔隔壁(びくうかくへき)の欠損」により、つながった状態になっています。これを目印に、漁業や釣り上げたマダイのウロコ等から年齢を調べています。

天然マダイ等では、鼻の穴は片側に2つあります。



放流マダイ



天然マダイ



写真提供：(公財)神奈川県栽培漁業協会

社会的評価が高まる LOVE BLUE 事業

釣りの起源は人類の歩みとともに古いものです。日本でも縄文時代にはすでに釣りが行なわれており、当時の釣り針が太平洋側の関東以北の遺跡や貝塚から発見されています。古事記にも神様が釣りを楽しんでいる様子が記載されています。そしてレジャーとしての釣りは、江戸時代の武士の間から広がっていったといわれています。

このように長い歴史を持つ釣りにかかわる製品を提供している(一社)日本釣用品工業会では、社会の変化に対応し、自然との共生を進めるため、5年前から社会貢献事業として LOVE BLUE 事業に取り組んでいます。ダイバーによる水中クリーンアップ、水辺環境保全に取り組む NPO 活動への支援(地球環境基金との協働プロジェクト)、マダイ放流事業など、社会からも高い評価を得ています。

現在ではこの事業への参加企業・団体は 240 を越え、全国各地でのさまざまな活動との連携が進んでいます。たとえばエコライフ・フェア 2016 に出展し、丸川環境大臣(当時)よりメッセージを頂き、沖縄クリーンコーストネットワーク(OCCN)や第36回全国豊かな海づくり大会~やまがた~との連携も行いました。こうしたことから自治体や漁業者からの感謝の声が広がっています。また、このような着実な地球環境保全への貢献実績を環境省小林正明事務次官(当時)にも報告し、環境省からも事業への理解と今後の一層の協力の申し出がありました。

今後の LOVE BLUE 事業の更なる発展を期待するものです。



京都大学名誉教授
松下和夫

公式FACEBOOK・公式ホームページのご案内

公式FACEBOOKでは最新の情報(水中クリーンアップ活動等)を配信しています。

公式ホームページでは自治体や地元からの生の声や、詳細な活動報告を掲載しています。

ぜひご覧ください。



FACEBOOK LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE
FACEBOOK



LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE HP
<http://www.loveblue.jp/>

